

令和5年度稲城市地域自立支援協議会（第1回）

〈議事録〉

日 時：令和5年7月10日（月）

15時00分～17時00分

場 所：地域振興プラザ 大中会議室

1 議題

- (1) 相談支援部会報告
- (2) 精神保健福祉部会報告
- (3) 子ども部会報告
- (4) 第四次稲城市障害者計画・第7期稲城市障害福祉計画・
第3期障害児福祉計画について

2 出席者

(1) 委員

役職	氏名	選出区分	組織名等
会長	藏野 ともみ	学識経験者	大妻女子大学
副会長	青野 修平	教育・雇用関係者	社会福祉法人 正夢の会
	石川 哲	福祉サービス事業者	NPO わくわく
	村上 愛美	福祉サービス事業者	社会福祉法人 正夢の会
	菊池 晴美	保健・医療関係者	東京都南多摩保健所
	津野 由記子	保健・医療関係者	島田療育センター
	川本 安岐夫	障害当事者団体	安心安全連絡会
	進藤 直人	障害当事者団体	稲城市身体障害者福祉協会
	高野 玲子	障害当事者団体	稲城市精神障害者家族会
	狩野 和枝	稲城市民生児童委員協議会	民生児童委員

(2) 事務局

稲城市	福祉部	山田部長
	福祉部 障害福祉課	眞下課長、細山主幹、中山係長、森橋副係長、野口、田中、 篠田
稲城市社会福祉協議会		山崎
マルシェいなぎ		原
計画策定支援事業者		株式会社名豊・池上
その他		東京都相談支援従事者研修実習生2名

(3) 傍聴者 3名

3 配付資料

- 資料1 令和5年度稲城市地域自立支援協議会委員一覧
- 資料2 令和5年度稲城市地域自立支援協議会事務局体制表
- 資料3 稲城市地域自立支援協議会設置要綱
- 資料4 稲城市地域自立支援協議会の体制
- 資料5 令和5年度稲城市地域自立支援協議会 開催日程
- 資料6 令和4年度 第4回稲城市相談支援部会 報告
- 資料7 令和5年度 第1回稲城市相談支援部会 報告
- 資料8 令和4年度 第4回稲城市精神保健福祉部会 報告
- 資料9 令和5年度 第1回稲城市精神保健福祉部会報告
- 資料10 令和4年度 第3回子ども部会報告
- 資料11 令和5年度 第1回子ども部会報告
- 資料12 障害計画 検討の流れ
- 資料13 アンケート 調査結果報告書（速報値）
- 資料14 障害計画 目次構成案
- 資料15 障害計画 体系案について
- 資料16 ヒアリングシート案
- 資料17 市内新規開設事業所
- 参考資料 市民との協働に関する資料

4 議事内容

(1) 稲城市地域自立支援協議会の概要について

協議会の設置要綱及び体制等について事務局から説明したところ（資料3・4・5）、委員から、一部の連絡会の名称が「～事業者連絡会」となっているが、事業者だけの集まりではなく、当事者のニーズを把握できる連絡会になるよう意識してほしい、と意見があった。

(2) 会長および副会長の選出について

委員の互選により、会長として蔵野委員、副会長として青野委員を選出した。

(3) 議題

① 相談支援部会報告

令和4年度第4回及び令和5年度第1回相談支援部会について事務局から報告を行い（資料6・7）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	地域生活支援拠点をどのように進めていくかが課題であり、本当に必要な人につながっていない現状がある。	連絡会では、緊急時にすぐにサービスが使えるよう相談機関と拠点施設の連携体制が重要との意見があり、次回以

		降にどのような連絡体制が構築できるか検討していく。
2	居宅介護事業者を含めた連絡会は、相談支援部会とは別に開催するのか。	相談支援部会と兼ねて開催する。
3	相談支援事業所がひっ迫している状況について、セルフプランへの移行の促進も重要だが、市の対応方針を教えてください。	市民への理解を促すとともに、各事業所が十分な対応ができるよう、相談支援事業所の開設を呼び掛けていきたい。昨年12月、今年4月に新たな相談事業所が開設された。
4	支給決定基準マニュアルの作成は来年度になるのか。	昨年度から検討を始めており、今後、市で案を作成し、相談支援事業所等からの意見を反映していきながら慎重に検討していきたい。遅くとも来年度には作成する予定。

② 精神保健福祉部会報告

令和4年度第4回及び令和5年度第1回精神保健福祉部会について事務局から報告を行い（資料8・9）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	市内に地域移行支援事業所がない中で、精神障害者にも対応した地域ケアシステムをどうつくりあげていくかが課題であり、この部会を通じて地域移行を推進していきたい。相談支援部会で、自主的な勉強会の発足について話があったが、そういった動きについて市にも応援してほしい。	—

③ 子ども部会報告

令和4年度第3回及び令和5年度第1回子ども部会について事務局から報告を行い（資料10・11）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	部会の中で、地域全体の相談体制・連携づくりが必要とあったが、具体的にどのように進めていくか市の考えを教えてください。	子ども部会の開催を通じて、そういった地域全体の課題が見えてきたので、今後は子どもに係る様々な機関と協議しながら相談体制・連携づくりについて検討していきたい。
2	一人の利用者が複数の事業所を利用していることがあり、一人当たりの利用量について、計画相談が適切な量にな	—

	るよう留意することも重要。	
3	この時期におやこ包括支援センターから療育の必要性の指摘があっても、来年度のサービス利用まで空白期間が生じているように思える。	その場合、きらきら学級や遊びの広場の案内、保育園の園庭開放での対応などの支援をおやこ包括支援センターが行っている。
4	保育園・幼稚園から小学校に進学するときに支援が引き継がれずに支援が分断されてしまうケースもあると聞く。事業所によっては療育に通っている子どもを小学校に引き継ぐこともあるが、その後の状況確認は事業所の持ち出しで行っている。	法内の保育所等訪問支援で引継いでいるが、必要に応じ先生と面談する場合、ボランティアで行う機会もあるということ。

④ 第四次稲城市障害者計画・第7期稲城市障害福祉計画・第3期障害児福祉計画

標記計画の検討の流れ、目次構成案及び体系案に加えて、昨年度に実施したアンケートの速報値及び今後関係団体・事業者に対して行うヒアリングについて事務局から説明を行い（資料13・14・15・16）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	3年前に比べるとアンケートの回収率が上がっている。WEB調査の効果かもしれないが、今後もデジタル活用は積極的に行ってほしい。一方で、デジタル活用についていけない方に対する配慮も課題。	—
2	アンケート結果の一部が、現場の感覚と乖離しているように感じる。本当に支援が必要な人に情報が届いているのか疑問に思う。今後の分析に期待する。	今回の内容は速報値であり、今後の様々な視点からアンケート結果の分析を行い、改めてお示ししたい。
3	会議の開催回数は限られているので、気が付いた意見があればメール等で事務局に伝えていきたい。	—
4	新しい事業所も市内に増えてきたので、ヒアリングの対象としてほしい。	—
5	最近、高齢者施設の中でも障害者サービスを提供する事例が出てきており、今後はそういった視点を持つことも重要。稲城市の現状はどうか。	高齢者サービスと障害者サービスの両方の指定をとっている事業所はあるが、高齢者施設での障害者サービスの提供はない。
6	多くの関係団体、事業所がある中で難しいとは思いますが、書面だけではなく、	今回は書面でヒアリングを行うが、追加で確認させていただく場合もあるかと

<p>対面でのヒアリングについても検討してほしい。会話のやりとりを通じて、質問の趣旨にあった回答ができたり、想いを引き出すことも可能になると思う。</p>	<p>思うので、その際はお願いしたい。</p>
---	-------------------------

(4) その他

① 新しい事業所

市内に新たに開設した事業所について共有（資料 17）、委員から、事業所は東長沼地区に多く、坂浜地区と平尾地区は少ない傾向にある、と意見があった。

② 市民団体等との協働

市民団体等との協働事業として、「つながりパークいなぎ 2023」、「障害者週間アート募集」及び「いなぎ「災害弱者の避難」推進実行委員会」について共有し（参考資料）、委員から、自立支援協議会の場から協働の取組が生まれている、と意見があった。

以上